

(3) 県負担・補助率の考え方

県の10の目標の1つである「山林や堆肥などを活用したクリーンなエネルギーを共有する」に関連する事業であるため、県負担は妥当。

研究・PR事業委託料には第二世代交付金（ソフト事業：補助率1/2）を活用予定。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	630	バイオコークス研究会報酬
旅費	814	バイオコークス研究会旅費
委託料	5,818	バイオコークス研究会研究委託料、PR事業委託料
使用料及び賃借料	165	バイオコークス研究会会場使用料
合計	7,427	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

地球温暖化防止・気候変動適応計画（中間見直し）【掲載予定】

10の政策目標

⑥山林や堆肥などを活用したクリーンなエネルギーを供給する。

(2) 国・他県の状況

無

(3) 後年度の財政負担

バイオコークス研究会での研究結果により次年度を検討。

(4) 事業主体及びその妥当性

バイオコークスに関する研究への支援を実施することで、バイオコークスの利用を普及・推進することができる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・バイオコークスの普及を推し進め、地域資源の有効活用による循環型社会の構築を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
バイオコークス 導入企業数（累					6社	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和6年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない

(評価)

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3:期待以上の成果あり
2:期待どおりの成果あり
1:期待どおりの成果が得られていない
0:ほとんど成果が得られていない

(評価)

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている

(評価)

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課
組み合わせる理由
や期待する効果 など